

農業技術情報

平成23年5月16日
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所
015-572-3128
JA 幕別町 54-2302
JA 札内 56-2131
日甜東部センター 54-2756
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の状況（幕別町 5月15日）（ ）内は平年値

作物名	生育良否	生育状況	作業状況
秋まき小麦	やや良	草丈 35.2 (32.6)cm 幼穂形成期 5/4 (5/7) 茎数 1,450 (1,233)本/m ²	
馬鈴しょ	-		植付期 5/7 (4/30)
てん菜	並	草丈 6.8 (6.0)cm 葉数 4.7 (5.4)枚	移植期 5/7 (5/3)
牧草	並	草丈 31.8 (31.7)cm 萌芽期 4/9 (4/13)	
飼料用とうもろこし	-		は種始 5/11 (5/12)
ごぼう	-		は種始 4/28 (4/30)
たまねぎ	並	葉数 2.3 (2.1)枚 葉鞘径 3.8 (3.4)mm	植付期 5/11 (5/7)

畑 作

1 秋まき小麦

(1) 除草剤散布

雑草害の懸念されるほ場では早めに処理しましょう。

「エコパートフロアブル」は薬害を生じやすいので、止葉抽出後の使用は避けて下さい。

対象 雑草	薬剤名	使用時期・ 量(/10a)	使用 回数	使用上の注意
広 葉 雑 草	エコパート フロアブル	麦の止葉抽出期前 まで 50~75ml	2	薬害を助長するので乳剤・展着剤と混用しない。止 葉が出始めたら使用しない。
	MCPソーダ塩	麦の幼穂形成期 収穫 45 日前まで 300g	1	晴天・高温時(20 以上)に散布する。
	バサグラン液剤	麦の幼穂形成期 収穫 45 日前まで 100~150ml	1	好天が2~3日連続するときに散布する。
	ハーモニー75 DF水和剤	麦の幼穂形成期 収穫 45 日前まで 7.5~10g	1	飛散に十分注意し、処理後は専用洗浄剤によりタン クを洗う。(平成23年度防除基準P32参照)

(2) 倒伏の予防

過繁茂で倒伏が懸念されるほ場では、いずれかの対策を講じましょう。倒伏すると製品収量が低下し、子実蛋白・灰分が上昇し品質も低下します。成長調整剤を使用する場合は、散布時期が遅れると効果が劣るので、ほ場をよく確認し適期に使用して下さい。また、他剤との混用は避けましょう。

	薬剤名	使用時期	使用量 / 10a	使用回数
茎 稈 伸 長 抑 制	サイコセル	出穂前20～10日 小麦草丈40～60cm	500ml	1
	エスレル10	止葉期～出穂始期	333～200ml	1
	カルタイムフロアブル	止葉期～出穂5日前	150ml	1

「防除基準」を参考に適期に使用して下さい。

散布要否の判断がつかない場合は、JAまたは普及センターにご相談下さい。

(3) 止葉期以降の防除

うどんこ病

曇雨天が続いたり、過繁茂による軟弱な生育で発生しやすくなります。うどんこ病の防除は、穂、止葉および止葉の1枚下の葉の発病を抑えることが基本となります。病気の進展を観察し、防除適期を逃さないようにしましょう。

赤さび病

「きたほなみ」の赤さび病に対する抵抗性は「やや強」ですが、発病は気象の影響（高温・乾燥）を受けやすく、下葉から上位葉へまん延が非常に早くなります。下葉に発生をみたら止葉抽出期から防除しましょう。

対象病害	防除時期	薬剤名	使用倍率	安全使用基準
うどんこ病 赤さび病	5月下旬～6月上旬 (止葉抽出期～ 穂ばらみ期)	アミスター20フロアブル	2,000～3,000	収穫7日前 3回まで

(4) 止葉期以降の窒素追肥

下の表を参考に追肥量を判断してください。

止葉期の 上位茎数	窒素追肥量 (kg/10a)	留 意 点
900本/m ² 以上	0	900本/m ² 未満の場合、生育に応じて(止葉直下葉の葉色)判断する
900本/m ² 未満	2～4 (上限4kg)	

上位茎数：上位茎（葉耳高10cm以上の茎のこと）の茎数

右の図を参照ください

葉面散布で追肥する場合・・・

尿素2%液（水100ℓに尿素2kgを溶かす）を用います

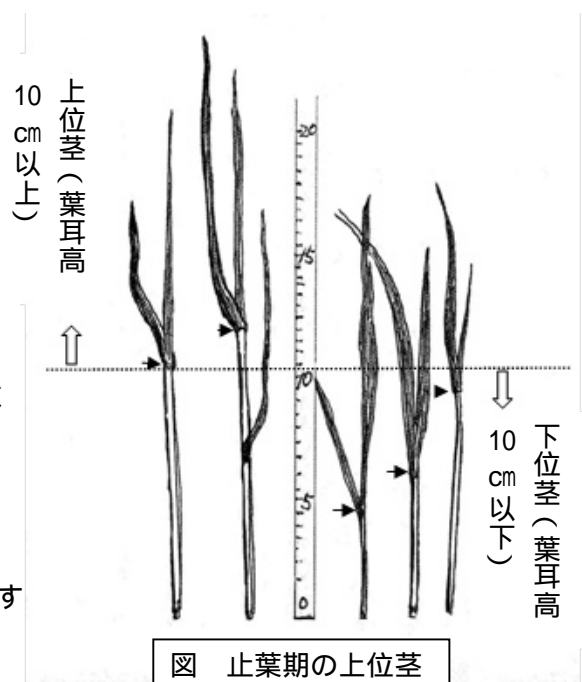


図 止葉期の上位茎

2 てん菜

4月下旬～5月上旬の断続的な降雨と低めの気温経過により、生育がやや遅れています。

(1) 定植後の生育促進対策は「カルチ」「畦間サブソイラー」の施工です。

地温上昇・土壌の膨軟化により、初期生育の促進、通気性・透水性の向上を図りましょう。

停滞水のみられる場合は、溝切り・ポンプアップ等で排水を実施しましょう。

(2) 除草剤散布

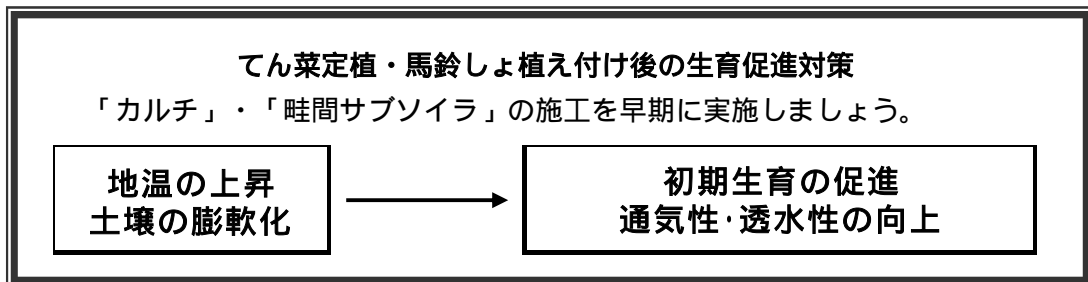
除草剤のポイントは適期処理にあります。気象条件・土壌水分等を考慮して実施しましょう。

直播栽培の風害対策でエン麦を混植した場合は、エン麦の4葉期までにイネ科除草剤による処理をおこなってください。

3 馬鈴しょ

萌芽の直前と萌芽1週間後に中耕を行い、地温の上昇を図り、萌芽と初期生育を揃えましょう。中耕は晴天の午前中に行うと効果が高く、降雨直前の作業は逆効果です。

早期培土は馬鈴しょの萌芽始期までに土壌水分過多の時を避けて行い、培土後は雑草の発生状況をよく観察し、適度な土壌水分のある時に除草剤を散布しましょう。



4 豆類

晩霜予報に注意して地温が十分確保できる時期には種し、深植えは避けましょう。

(1) は種時の病害虫対策

タネバエ対策

低温と降雨が続いたため、土壌水分が高くタネバエの発生が懸念され、金時類や小豆ではタネバエで大被害を受けることがあります。種子消毒をしっかりと行いましょう。

以下のような、発生しやすい条件下では種は避けましょう(苗立枯病も助長します)。

ア は種後低温が続き、出芽までの日数が長くなったとき

イ 土壌水分が高いときに無理には種したとき

ウ 牧草・緑肥を鋤込んだとき

エ 魚かす・鶏糞・未熟堆肥等を施用したとき

クルーザーFS30使用の注意(種子塗沫)

・必ず殺菌剤と併用し、処理は **クルーザー 殺菌剤 根粒菌** の順とする。

・菜豆・小豆は乾燥に時間がかかるので、早めに準備を行う。

(塗沫後乾燥に要する時間は、菜豆で5～6時間、小豆で1～3日)

・アブラムシ防除のためのダイシストン粒剤の播溝施用は不要。

各種病害対策

大豆・小豆の良好な出芽のために、必ず「チウラム80」を併用しましょう。

大豆わい化病・菜豆黄化病（ジャガイモヒゲナガアブラムシ）の防除

今年のアブラムシの飛来時期は平年並みと予想されます。山林や牧草地に近い畑では被害が多くなりますので、防除計画を立て被害を防ぎましょう。

ジャガイモヒゲナガアブラムシの飛来始予測日（平均気温 1 以上の積算気温 400 の日）

	糠内	池田	豊頃	浦幌	本別
平成23年(予想)	6月2日	6月3日	6月3日	6月2日	5月30日
平年	6月3日	6月2日	6月3日	6月3日	5月30日
遅速	+1	-1	±0	+1	±0

左の表は 5/10 までの
実測値と 5/11 以降の平
年値より算出

【は種時の病害虫対策】

クルーザーFS30 を使用する場合（必ずクルーザーFS30 を先に処理する）

処理方法	病害虫名	薬剤名	使用濃度	使用基準
種子塗沫	アブラムシ タネバエ	クルーザーFS30 +	原液 6ml/種子 1kg	は種前 1 回以内
種子消毒	各種病害	チウラム 80	2 ~ 5g/種子 1kg	は種前 1 回以内
		または 粉衣用ペアーカスミン	3g/種子 1kg	は種前 1 回以内

（アブラムシ多発時は、出芽揃期の防除も行いましょう）

クルーザーFS30 を使用しない場合

処理方法	病害虫名	薬剤名	濃度・薬量	使用基準
種子消毒	各種病害	チウラム 80	2 ~ 5g/種子 1kg	は種前 1 回以内
		または 粉衣用ペアーカスミン	3g/種子 1kg	は種前 1 回以内
土壌施用	アブラムシ	ダイシストン粒剤	大豆 4 ~ 6kg/10a 小豆 3 ~ 6kg/10a 菜豆 4kg/10a	収穫 60 日前 1 回 以内

【出芽後の殺虫剤茎葉散布】

作物	病害虫名	薬剤名	使用濃度	使用基準
大豆	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	ペイオフ ME 液剤	2000	収穫 7 日前 3 回以内
		バイスロイド乳剤	2000	収穫 7 日前 3 回以内
菜豆	ジャガイモヒゲナガアブラムシ	ペイオフ ME 液剤	2000	収穫 7 日前 3 回以内
	アブラムシ類	ゲットアウト WDG	3000	収穫 7 日前 3 回以内

茎葉散布のタイミング

クルーザーFS30 を使用した場合は、出芽揃期の 7 ~ 10 日後に殺虫剤の茎葉散布をおこなう。
クルーザーFS30 を使用していない場合は、2 回防除が基本。1 回目は出芽揃期、2 回目はその
7 ~ 10 日後におこなう。

(2) 除草剤散布

土壌処理

対象作物	薬剤名	使用時期	10a当薬量	使用回数
大豆 小豆 菜豆	ピンサイド乳剤	全面土壌散布 は種後 (雑草発生前)	330 ~ 400ml	1
大豆 菜豆(赤系金時)	ロロックス	全面土壌散布 は種直後	100 ~ 150g	1

砂土系で透水性の良いほ場では薬害の危険性があるので、使用を避ける。

雑草処理

毎年、薬害による黄化・縮葉がみられます。使用基準を守り適期に散布しましょう。特に生育遅延時に薬害が生じやすいので注意して下さい。

対象作物	薬剤名	防除時期	10a当薬量
大豆・小豆 菜豆(金時類のみ)	パワーガイザー液剤	大豆・小豆: 出芽直前 ~ 出芽揃 菜豆 : 出芽直前 ~ 出芽期	200 ~ 300ml
菜豆	バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	初生葉展開期 ~ 本葉抽出始期 (雑草2 ~ 3葉期)	50 ~ 70ml

「パワーガイザー液剤」は有機リン系殺虫剤および他の除草剤との10日以内の近接散布は薬害の恐れがあるので避けましょう。

野 菜

1 レタス・キャベツ

定植後からの降雨と低温により、生育が遅れています。

(1) べた掛け栽培では、浮かしをいれ高温障害にならないようにします。

(2) キャベツ定植後の活着不良対策

定植後に紫色となって生育が不良な場合は、葉面散布のカルハード1,000倍又はカルプラス1,000倍で根の促進を図って下さい。

(3) キャベツのキスジノミハムシ

キスジノミハムシの発生が見られますので、定植当日にジュリボフロアブル200倍液をトレイ1箱当たり0.5%、1回以内でかん注して下さい。

2 はくさい

低温による抽台対策のために展開葉数8枚までは、低温感応(13以下)させない栽培管理「マルチとべた掛け栽培」を行って下さい。ただし、べた掛け栽培では最高気温が25以上になったら、高温障害回避のために浮かしを入れるか除去を行って下さい。

3 だいこん

(1) べた掛け資材による抽台回避と生育促進

は種後7日~10日間で最も低温感応しやすいため、この間の最低気温が13以下の場合は、どの作型でもべた掛け資材による抽台回避が必要です。

今後、最高気温が25 以上になった場合は、浮かしを入れ、高温障害にならないようにして下さい。

(2) 間引き作業

本葉発生始(は種後10日頃)を目安とし、子葉の揃ったものを残します。

(3) キスジノミハムシ・ゴミムシ対策

キスジノミハムシの防除とともに、7月中～下旬に出荷をする作型(5月末までの種)では、ゴミムシの被害が多く見られるので、フォース粒剤を使用して下さい。

4 ながいも

(1) 催芽後半の管理

青かび病の発生が一部で見られますので、催芽中でも青かび病の発生に注意して発生種いもを出来る限り取り除いて下さい。

催芽管理による不萌芽対策

- ・毎日1回、換気の実施
- ・催芽後半は、気温を20 以下にする管理(ハウスでは寒冷紗・青テントを掛ける)・植え付け2～3日前は順化期間として、植え付けほ場の地温と同程度まで温度を下げて管理します。

(2) 植付遅れによる芽の管理

首部は芽の伸長が早いため、芽が確認されたら早めに涼しい場所に移します。

胴部・尻部でも1cm程度の芽になったら、催芽を中止して涼しい場所に移し、芽が乾燥しないようシートで覆います。

芽の長さが10cm以上になった場合は、出来る限り早めに除去し、再度、数日間催芽を行って植え付けすると、収量低下は最小限に抑えられます。

(3) 施肥量の注意点

近年、植え付け後に降雨量が多くなっており、基肥+分肥体系が収量を低下させない施肥方法となっています。

マルチ栽培では全窒素成分20kg/10aとし、基肥15kg+分肥5kg。

露地栽培では全窒素成分25kg/10aとし、基肥20kg+分肥5kg。

多肥栽培は生育が旺盛となり、登熟が遅れ「未熟いも」、土壌病害の発生が多くなりますので避けて下さい。

5 ごぼう

(1) 除草剤の使用

雨がいった後などの土壌表面が湿っている時の散布がより効果的です。

土壌が乾燥している時の散布水量は、150ℓ/10aにします。

(2) 除草剤アグロマックス水和剤の露地栽培使用基準

薬剤名	薬量g/10a	使用時期	使用回数
アグロマックス 水和剤	200～ 300	全面土壌散布 (は種後発芽前雑草発生前)	1回以内

アグロマックス水和剤は、発芽時の地割れが発生するまでは処理が可能。

6 にんじん

にんじんは発芽を高めることが増収のポイントとなります。

(1) 発芽を高めるための土壌条件

土壌条件	目 標	対 策
土 質	固結せず膨軟	ロータリ碎土・整地は2回程度。 サブソイラ・深耕ロータリによる盤層の破碎。
作 土	排水が良く、保水力がある作土層	降雨が停滞する畑は栽培不向き。 五寸にんじんは最低20cmの作土。
化学性	pH6.0、有効態りん酸30mg/100g	化学性を適正值にすることで、発芽、根部の伸長・肥大が良好。

(2) 雑草対策

発芽まで日数を要するために除草剤処理を行います。

薬 剤 名	雑 草	薬量g/10a	使用時期	回 数
ゴーゴーサン乳剤 30	畑地一年生 雑草	200～ 400	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	1回以内
ロックス	畑地一年生	100～ 200	全面土壌散布 は種直後	1回以内
	広葉雑草	100～ 150	全面土壌散布 にんじんの3～5葉期 収穫30日前まで	1回以内
ナブ乳剤	畑地一年生 イネ科雑草	150～ 200	雑草茎葉散布 イネ科雑草の3～5葉期 但し、収穫30日前まで	1回以内

べたがけ栽培では、少ない薬量で処理する。

(3) 抽台対策とべた掛け資材の除去

最も低温感応しやすい4葉期頃の最低気温が15 以下の場合、べた掛け栽培による抽台対策が必要です。

べた掛け資材の除去は、5～6葉期に行うことで抽台株率を低下させ、根部の伸長と肥大を促進させます。

7 露地アスパラガス

低温と強風により、収穫は5月15日頃から開始されていますが、若干の曲がりが見られます。

(1) 強風による曲がり対策

砂ぼこりなどで若茎に傷がつくと曲がりが発生します。

防風網などを設置して、被害の軽減を図って下さい。

(2) 凍害を受けた場合

凍害を受けた若茎は、回復しないので速やかに刈り取り、新芽の伸長を促進させます。

(3) 収穫打ち切りの目安 一般的な収穫日数の目安

定植後年数	収穫日数(日)	目標収量(kg/10a)
3年目	15	150~200
4年目	30	200~300
5年目	50	350~400
6年目以上	60	500~600

そのほかの収穫日数の目安は、M規格以下の若茎比率が高まったら、収穫打ち切りとすることもあります。

8 かぼちゃ

(1) ほ場準備

マルチの設置は定植(は種)5~7日前とし、地温とマルチ内の土壌水分を確保して下さい。
早い時期の定植については、べた掛けやトンネルなどで霜対策を行います。

(2) 直播栽培のは種

は種期は5月25日~6月25日。

は種穴に1粒まきで、必ず補植用苗を用意しては種深さ1~2cm。

9 たまねぎ

(1) 移植栽培

本年は降雨により移植作業が遅れています。

移植遅れによる老化苗対策

- ・根鉢(ブロック)を崩さないために葉面散布で、生育維持に努めて下さい。
液肥は、トミ-046又は688の100倍~200倍を葉面散布します。
- ・外気に慣らし、徒長を防いで下さい。
- ・葉切りを実施します。

除草剤処理

定植後(活着後)の除草剤ゴーゴーサン乳剤30 300~500m /10aの土壌処理に当たっては、土壌が乾燥している時の散布水量は、150 /10aでの効果が高いです。

春の農作業事故防止

過去6年間の管内の調査では、農作業事故は「4~6月」、「9~10月」に集中しています。
春の農作業事故は、機上作業中に足を滑らせ落下する例や機械の乗降時に滑り落ちる例、トラックのアオリで手や指を挟む例が多くみられます。

みんなで声をかけあい、安全作業を心がけましょう!

農薬の安全使用

除草剤散布など、スプレーヤを使用する作業が増える時期です。
農薬の安全使用基準を遵守し、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

